



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

No. 149 1989年10月20日



国際ロータリー会長 ヒュー・M・アーチャー

1989-90年度国際ロータリーのテーマ

ENJOY ROTARY!

**ロータリーを
楽しもう!**

本日の予定 1989年10月20日(第151回)
第3回クラブ協議会 13:10~15:00
テーマ「会員増強と財政」

先週報告

1989年10月13日 第150回

卓話 『米山奨学月間に因んで』

中 利太郎氏 / 275地区米山奨学委員長
東京日野RC会員

司 会: 佐藤 定宏 会長

♪ロータリーソング: 「我等の生業」

ソングリーダー: 山田 順則 君

ニコニコボックス紹介: 関 征春 君

来客紹介: 福田 恭三 君

出席状況: 会員52名中 / 出席34名 / 欠席18名
来客17名(海外1名・地方4名・都内12名)

◎会長報告

本日アイメイト基金ボックスを設置しました。これはRIの意義ある業績賞の格好のテーマであるという自覚をもって取り組んでいきたいと思えます。

◎幹事報告

10月20日の第3回クラブ協議会では会員増強と財政の問題をとりあげます。大切なテーマですので、全会員の出席を期待します。

◎社会奉仕委員会報告

アイメイト基金ボックスは、今年限りということで設置しました。最低目標は150万円です。寄付の強制はしませんが、できるだけ多くの寄付をお願いします。

◎アイメイトボックス基金(順不同・敬称略)

青野 信次・馬場 一廣・福田 恭三・

後藤 信夫・平井 逸夫・河原 勢自・

小湊 雅亮・沖 宏之・佐藤 定宏・

四分一 勝・鈴木 重徳・武下 朗・

保森 登 10月13日 13件 ¥174,500



◎慶事披露

お誕生日 10月17日 宮 沢 博 君

100%出席 3年 村 川 優 君

3年 馬 場 一 廣 君

ニコニコボックス

(順不同・敬称略)

佐藤 定宏 アイメイトボックス開設記念。

宮沢 博 ケガも病気もせず人生の舞台を迎えます。

河原 勢自 当会の三周年をお祝いたします。

田中 武 食べ歩きの会でまたまた誕生を祝っていた
だきありがとうございました。

沖 宏之・後藤 信夫・関 征春・山田 順則

「食べ歩きの会」たいへん楽しゅうございました。

福田 恭三 永井さん、食べ歩きの会ごくろう様でした。

大日方 真 食べ歩き会不参加で迷惑をかけました。

馬場 一廣 クラブ協議会打合せ有難うございました。

吉田 用親 10/7会長と偶然新幹線で隣合わせました。

宮本 正祥 ブロードウェイで見たザ・ファントム・オブ
・ザ・オペラ感動しました。

保科 正 欠席が続き失礼しました。

10月13日 14件 ¥58,000

それぞれ、多額のご寄附を頂き有難うございました。

◎ビジター(敬称略)

ページ ジェイ/Mercer Is, Wash (USA)、高橋正臣/

別府北RC、鈴木茂夫/秋田RC、大倉 晃/大阪西RC

RC、大林剛郎/大阪RC、有馬康男・米倉健司/豊島東

RC、香取純一/東京神田RC、小野寺裕/世田谷RC、

柳田征史/東京目黒RC、五條吉和/東京山の手RC、

尾関武男/東京中央RC、堀真一郎/東京日本橋RC、

池部 良・小見山了一・津室隆夫・高橋 良/東京南RC

『米山奨学月間に因んで』

中 利太郎氏／275 地区米山奨学委員長
東京日野RC会長



今月は米山奨学会月間ですが、以前4月22日から28日を米山週間としていたのを、10月に移し、米山月間になりました。現在日本のロータリーが力を入れている国際奨学事業は、3つあります。

- ①ロータリー財団による学生の海外派遣と受入れ
- ②地区の国際青少年交換
- ③米山奨学事業

このうち米山奨学事業は、わが国のロータリーが独自に行っている国際奨学制度で、主としてアジア諸国から日本に留学している私費留学生を対象としています。国内には、62の民間奨学金支給団体があり、奨学金を受けている私費留学生は約1,800人いますが、100名以上の奨学生を持つのは3団体だけで、500名の奨学生を扱う米山奨学会は民間最大の団体です。

米山奨学会は、第2次大戦で戦火をこうむったアジアの人達に対するおわびと、大戦を防げなかった原因の1つに国際交流、国際理解の不足があったというポールハリスの晩年の考えに共感して努力された米山梅吉さんを記念して設けられました。

わが国の私費留学生は、めぐまれない国からの人が多く、物価水準の違いや円高で、厳しい生活を強いられています。私費留学生の57%が平均1日5時間アルバイトをしているといわれ、そのため、学業が進まない、健康をそこねるといった学生が増えています。

米山奨学会は、単にお金を与えるだけでなく、留学生とロータリアンの交流も大切な使命にしています。世話クラブとカウンセラーを決め、奨学生の相談相手になる。米山奨学生の喜びの1つは、各方面を代表するロータリアンと直接の対話を持てることです。この心の交流がよく機能すると相互理解が深まり、奨学制度が身のあるものになりますが、機能しないと反動的な学生が出てきます。

米山奨学会は、昭和28年に東京RCが作った米山基金がもとになり、昭和42年に財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。現在では基本基金30億円、特別積立金21億円の規模になっています。

この機会に、米山奨学会の資料などをお読みいただき、是非とも米山奨学会に対する認識を深めていただきたいと思います。(まとめ大日方)

『狂言を見て下さい』

奈良時代の初期に中国から渡ってきた芸能に散楽がありました。これは大道芸人のような滑稽芸で、ものまね、手品、^{カルワザ}軽芸、奇術、魔術、歌などを、すべて投銭をもらって街角でやる芸能でした。これが日本の風土になじみ猿楽になっていきます。猿楽は、鎌倉時代に、当時流行の今様歌や白拍子を取り入れて新しい芸能になります。今様歌は現代には残っていませんが、黒田節をこぶしを全部はずしてうたうと今様歌風になるそうです。白拍子は、女が男装して舞う男舞で、静御前が鎌倉八幡宮で舞った舞です。鎌倉末期になると、猿楽は歌や舞を中心にするものと、ものまねや身ぶりを中心とするものに分かれます。そして歌舞中心の流れが能楽に、歌や舞を従たるものとして、物語、身ぶり、手ぶりを中心とする芸能が狂言になっていきます。こうして、別の方向に発展した2つの芸能は江戸時代になると、公の儀式で演じられる武家式楽として、1つの舞台で組み合わせて演じられることになり、現代の能と狂言という入り組んだ関係が生まれたのです。

また、能は猿楽の悲劇的な要素を、狂言は喜劇的な要素を発展させたともいわれます。狂言では、庶民の他に、大名、出家、侍、下人、神様、牛、馬、猿、狐、^{キノコ}菌などが主人公として出てきますが、主人公を扱うのが庶民的であり、喜劇的になるのだと思います。例えば神鳴という曲がありますが、これは、都の医者が都には名医が沢山いて商売にならないといって旅に出る。そこへ雷が落ちます。ところが落ちた雷は腰を抜かしてしまい、医者に腰を直してくれと頼む。医者は針をさして腰を直しますが、直った雷が天に戻ろうとすると、治療代の交渉をする。やがて交渉がまとまり、雷は歌をうたいながら天に昇るという話です。このような、上流社会に属する医者に都落ちさせたり治療費の交渉をさせるということは、能の世界では絶対にありません。(1989年9月8日 広瀬邦哉氏の卓話から)

◇他クラブ例会変更のお知らせ

東京新宿RC 10月27日(金) 休会

東京城北RC 10月27日(金)→30日(月)

中央分区分IMに振替

東京麹町RC 10月30日(月) 中央分区分IMに振替

◎次週予定 1989年10月27日(金)(第152回)

卓話予定(イニシエーションスピーチ)

『私と印刷』 宮澤 博君/当クラブ会員
久栄興産(株)代表取締役社長

受付会計/保科・岩瀬 来客紹介/吉田

ソングリーダー/山田 ニコニコボックス/芦部

各担当の会員の方は、11時50分迄にご出席願います。